■宇都宮三郎　　窯業家。初めて公に化学の語を認めさせ，化学技術近代化に尽力，日本での生命保険加入第一号にも。
うつのみやさぶろう
高島砲術・・1834＝　　尾張国名古屋で，藩士神谷義重の三男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 3歳：

順天堂始・・1843＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝11歳：
同藩の上田仲敏に_西洋砲術を学び，

北斎没・・・1849＝15歳：この頃，_宇田川榕庵の「舎密開宗」を独習，

万次郎帰国・1852＝18歳：
ペリー来航・1853＝19歳：
開国開港・・1854＝20歳：_ペリーの再来航に備える砲台づくりのため，藩に命じられて江戸に出，
藩士に砲術を教え，弾薬の研究を行なう一方，他方杉田成卿に蘭学を学び広く蘭学者と交際　して，海外知識の吸収をはかり，_帰藩を命じられると，
蕃書調所・・1857＝23歳：_脱藩し，自由に砲術研究を進める。幕府の大砲鋳造を批判，
五ヶ国条約・1858＝24歳：*優れた地金の定量分析をして品質改善を提唱，化学の重要性を要路に説く。英艦の砲弾の起爆剤が塩素酸カリウムであることを確かめ，伊豆韮山の大砲鋳造の品質改良を指導したりして，勝海舟に認められ，
桜田門外変・1860＝26歳：
遣欧使節・・1861＝27歳：_勝の推挙で，蕃書調所に設けられ精煉方の手伝出役，
生麦事件・・1862＝28歳：_教授手伝出役となる。
8月18日政変 1863＝29歳：_蕃書調所が開成所と改称されるに際し，精煉方を化学所と改称するよう建言，

薩摩藩士密航1865＝31歳：*始めて公に化学の語が使用されるようになる。
この間，桂川甫周の家に出入りし，福沢諭吉と出会って，生涯の友となる一方，重い脚気病となって死を覚悟，西洋医学所に「解剖願い書」を提出，献体志願第一号とされる。
明治維新・・1868＝34歳：
版籍奉還・・1869＝35歳：開成学校出仕を命じられ中助教となる。日本初の化学を教える家塾{錦径舎}を開くも，短期間に終わり，
初の日刊新聞1870＝36歳：この頃，結婚。当日媒酌人が新婦を連れて行くも，実験に夢中で出迎えもせず，
廃藩置県・・1871＝37歳：大学南校に出仕し少教授，岩倉使節団に加わって渡欧，
学問のすすめ1872＝38歳：西洋の先進技術を摂取して帰国，*工部省に移り，
明治6年政変 1873＝39歳：精煉所教頭平岡義通から依頼されて，_セメントの国産化を図るべくセメント製造の研究を開始，
佐賀の乱・・1874＝40歳：_政府が深川に創設した攝綿篤製造所の所長を命じられるや，完成したばかりの工場を壊し，
初の民間工場1875＝41歳：_英仏流の新方式を採用すべく1年かけて新工場を建設，少量ながら焼成に成功，再び欧米に出張し，
_セメント，炭酸ソーダ等の製造研究を行って帰国，
西南戦争・・1877＝43歳：_工部権大技長となる。
大久保暗殺・1878＝44歳：_耐火煉瓦の製造も開始，
沖縄県編入・1879＝45歳：_福沢諭吉と相談の上，阿部泰蔵を社長に明治生命保険会社を創立，
・・・・・・1880＝46歳：_福沢の提唱で結成された日本初の実業家クラブ{交詢社}に加入，銀座に完成直後の自宅を社屋に提供，
明治14年政変1881＝47歳：_日本での生命保険加入第一号となる。
新体詩抄・・1882＝48歳：_工部大技長となり，
岩倉具視没・1883＝49歳：この製造所が民間払下げ政策で浅野セメントとなり，
秩父事件・・1884＝50歳：*退官，

_陶窯の改良のほか，炭酸ソーダ・藍，醸造などにも活躍，民間の化学技術近代化に尽くして，

初の対等条約1888＝54歳：
帝国憲法発布1889＝55歳：

日清戦争始・1894＝60歳：

八幡製鉄始・1897＝63歳：

教科書疑獄・1902＝68歳：芝豊岡町の自宅で_没した。

インターネット，